



5. 19 小学校6年生お茶摘みに挑戦



## ふるさとを肌で感じた小学生

5年生は、炭焼き体験、6年生はお茶摘み体験。村の特産である白川茶とかつて山村生活で欠くことができなかった木炭生産。挑戦した子どもたちのほとんどは初体験。

真剣な眼差しが印象的でした。



5. 30 小学校5年生の炭焼き体験



# 広報 ひがししらかわ

1994  
平成6年

⑥ No.396

人口の動き	
—5月末住民登録人口から—	
世帯数	906世帯
人口	3,411人
転入	3人
転出	7人
出生	2人
死亡	1人
先月と比較して	3人減
昨年同月と比較して	23人減



# 健やかで長生きの村に

特集「東白川村高齢者保健福祉計画」

「八百七十四人」。これは四月末現在村内に住む六十五歳以上の人、つまり高齢者の数です。この数は村の全人口の二五・六割にあたります。

高齢化社会を日本全体で眺めた場合、私たちの国は、世界でも類を見ない程早い速度で高齢化が進行しており、平成三十二年には全人口の二五割、四人に一人は高齢者になると予測されています。

また、女性の社会進出や核家族化、独居老人世帯、高齢者のみの夫婦世帯といった形態の増加により家庭での介護力が低下し、介護者への負担は年々大きくなっています。

国ではこうした点を踏まえ、高齢者福祉推進十年戦略、いわゆる「ゴールドプラン」を策定し、具体的な整備目標を掲げたほか、全市町村に対し、高齢者対策を推進するための老人保健福祉計画の策定を義務づけました。これを受けた村では、平成十一年度を目標年次においた「東白川村高齢者保健福祉計画」を策定しました。

今月は、村で現在実施されている保健福祉サービスをみてみるとともに、これからの高齢者対策について考えてみたいと思います。

# 病院から自宅へ「訪問看護」レポート

東白川病院で、看護婦さんが患者さんの自宅まで訪ねて看護を行う、「訪問看護」が本格的にスタートしたのは昨年から。それ以前は、退院後のアフターケアとして不定期で何うかはありましたが、専属の看護婦さんが定期的に訪問することはありませんでした。「退院後、家族が薬だけ取りに来る人があり、その人が良くなっているのか、悪くなっているのか分からないことが多く、中



おしゃべりをしながら楽しく散歩。動くことは健康に一番

にはいろいろな事情で定期的に通院できない人がいる。それが訪問看護の始まりでした」と院長大澤耕太郎先生は話して下さいましたが、現在、五十七人の対象者に対し、今井さち子さん、安江豊子さんの二人が、毎日交代で訪問看護にあたっています。

この日、朝九時に病院を出発して今井さんが二軒目に訪問したのは、神付の早瀬晋平さんのお宅です。約束の時間十時より五分ほど早く到着した今井

さん、さっそく血圧測定や、脈拍の検査、検温などを手際良く済ませていきます。

今年八十六歳の早瀬さんは、肺の機能が少々弱まっているため、在宅酸素療法を行っています。

訪問看護が行われる理由には、寝たきりの方などさまざまなケースがあります。家族と一緒に暮らしている早瀬さんの場合は、病院へ通院の際、車での道中で息切れしたり、待ち時間に呼吸が困難になったりしたため、一度入院してからは、ず

つと訪問看護を受けています。

「体を動かすとえらくなるので酸素ボンベを着けます。通院するときも息切れがして大変でしたが、看護婦さんが来てくれるようになって本当に助かっています。安心して何でも話ができるし、来てくれる日が待ち遠しいです」と早瀬さん。

この日も今井さんとの楽しそうな会話ははずんでいました。

また、この日は、酸素ボンベを着けての散歩も行い、終わったあとの状態の問診があったため正味一時間程度の訪問時間でしたが、ほとんどの訪問先では、一回三、四十分くらいのようにです。この日は、早瀬さん宅以外に七軒の訪問予定があり、午前中に四軒訪問するため、今井さんは、さっそく次の訪問先へと出発しました。

訪問の対象者となる方の中には、この日の早瀬さんのように比較的軽症の軽い人もあれば、中には寝たきりのような人もあります。

訪問看護のメリットの一つに、二週間に一回の割合で訪問することにより例えば、前の訪問時よりも顔にむくみがある、といったようなちよつとした体の変化も気が付く、ということがあるそうです。また、訪問先で前の時と



今日の血圧の調子はどうですか

比べて容体が著しく変わっているような場合、看護婦さんは、直ちに病院へ連絡し、医師からの指示を仰いだうえて、適切な処置を行います。

新しい医療サービス訪問看護を見ってきましたが、今井さんは、看護婦としての立場からこんな話をしてくれました。

「一番の良い点は、患者の家族のひと話ができることです。話をすることによって家族の人の考えも分かります。また、患者さんご自身も外来で先生を前にしては、なかなかいえないような話もして下さいます。中には、体の調子のことばかりでなく世間話やいろんな話が飛び出すこともありますよ……」

大澤先生は、訪問看護についてまた別の角度から次のように話します。

「訪問看護の効果は、以前に比べて時間外に急病で運び込まれる患者の数が減ったことに表れています。状態の変化が早期に発見できるようになったことが良い効果を生んだのでしよう」。

この訪問看護は、医療サービスの一つとして行われており、例えば、一人暮らしの方などや寝たきりの方などの身のまわりの世話などは行いません。そうした方へのサービスは、社会福祉協議会が派遣するホームヘルパーさんが行います。

（次ページへ続く）

# 家庭介護を支えるホームヘルパー

ホームヘルパーは、寝たきりや痴呆の方など介護を要するお年寄りを抱える家庭の手伝いや独居のお年寄りの身のまわりのお世話を行います。現在、村でこのホームヘルプサービスを受けているのは、独り暮らしのお年寄りの世帯十四軒を含めた三十軒にのびります。

村でホームヘルパーとして活躍している皆さんは、パートの方も含めて六人。その内の一人、樋口美和子さんの活動を追ってみました。



この日の午後、樋口さんが訪問されたのは、ある寝たきりのお年寄りのお宅でした。

樋口さんは、神土・五加方面の十七人の方の担当をしています。その中には、この日の訪問先の方のように寝たきりの人が三人、独り暮らしの人が九人あるそうです。

この日は、さわやかに晴れわたった暖かい一日。今日は、暖かいから空気を入れ換えようね」と話しかけながら、到着後まず最初の仕事は、窓を開けての換気です。

次いで部屋の掃き掃除を済ませ、お年寄りの顔や体をぬれタオルできれいにふいてあげると、何ともいえない気持ちのよさそうな笑顔。休む間もなく、お年寄りをいったん座イスに移動し、今度はシーツ換えです。寝たきりの人の場合は特に清潔に心掛けています。

この間の所要時間が、だいたい四十分からい。樋口さんは、仕事をしながらでも笑顔と会話は絶やしません。

このお宅では、家庭介護用のギャジベッドと床ずれ防止用のエアーマットを使用しています。ともに社協が貸し出しているものですが、こうした介護用品の使い心地を確かめることもヘルパーさんの大切な仕事の一つです。

この日に訪ねたお年寄りの場合は、週二回、月曜日と金曜日にせせらぎ荘

のデイ・サービスへ通っており、樋口さんが訪ねるのは、残りの三日、週三回となります。また、看護婦さんの訪問が月二回、お医者さんも月一回の往診があるようです。

ヘルパーさんは、一日に三人り五人くらいのお年寄りのお世話をしています。一回あたりの時間は、一時間から三時間くらい。

この日も樋口さんは、ここへ来る前、午前中に二軒のお宅を訪ねていました。

この日のように寝たきりのお年寄りの場合は、訪問する回数も必然的に増えてきます。

仕事の内容については、今まで述べてきたようなことがほとんどとなりますが、中でもシーツを取り換える時などはお年寄りを一度移動しておいて、行わねばならないため、かなりの重労働。また、身のまわりのことがほとんど自分でできる独り暮らしのお年寄りの場合は、話し相手をするのが中心になるようですが、時には、洗濯や食事の仕度から畑のあるようなお宅では、畑仕事もされるとか。本当に何から何ま

今年でホームヘルパーとなつて二年目となる樋口美和子さんは、ヘルパーの魅力についてこんな話をしてくれました。

「まだ、ヘルパーの仕事に就いて二年目ですが、お年寄りと接しているとだんだんといろんなことが伝わってくるようになるので



ホームヘルパー 樋口さん

## お年寄りの気持ちが伝わるから

でこなさなければならぬ大変な仕事です。

「細かい所まで気を配って下さって本当にありがたいです。これは、ある家庭介護者の方に聞いた話です。

ホームヘルプサービスの利用者からは、好評をいただいているこの活動ですが、昨年行った高齢者基礎調査によれば、「知っているが利用したことがない」という人は、全体の八割を超えました。もちろんホームヘルパーの手助けを受けなくても充分介護が行われている問題は無いでしょうし、そのほうが理想的ですが、もっと気軽にたくさんの方が利用できるようなところが今後の課題でしょう。

# 家庭の中の福祉を第一に考えて

人は、誰でも家庭の中であって安らぎ、住み慣れた環境の中で精神の安定を得ます。まして、心身に障害があったり、健康であっても、年とともに少しづつ体が衰えていくことは否めない高齢者にとっては、家庭以上の安楽の場所はほかにはないのではないのでしょうか。

「東白川村高齢者保健福祉計画」

## 訪問のバランスがとれる「一体化」に期待

現在の形態は、病院からの訪問看護婦と社協からのホームヘルパー、また役場からの保健婦のいわゆる医療、福祉、保健の活動がバラバラに行われているといっても過言ではありません。横のつながりができていないために例えば、ある介護家庭に同じ時間に看護婦や保健婦が、訪問に行き、がっちゃん合うことだって考えられます。今回策定された「東白川村高齢者保健福祉計画」の中に「保健、福祉、医療の一体化」の考えがあります。現実的には、なかなか難しい問題もあると思いますが、これが実現し、三者がシステム化されれば、訪問世帯へのバランスも取れるようになりすし、今まで以上に一

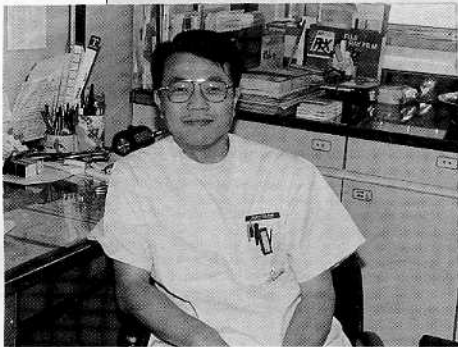
は、まず第一に家庭を中心に考え、在宅福祉を基本に展開していきます。

しかし、現実には介護を要するお年寄りを抱える家庭での苦勞は測り知れないものがあります。昨年実施した高齢者基礎調査でも「介護者が最も困っていること」に対する解答で「心身の疲勞」や「時間的余裕がない」と答えた人が全体の半数近く、また「仕事に

人あたりの訪問回数も増えてきます。また、今後は、お年寄りの数が増えれば介護を要する方も増えます。これからはボランティアなどの「人」の力が大切になってきます。そうした芽を育てていくためにも本当に小さいころからの意識改革が大切になるのではないのでしょうか。

東白川病院長

大澤耕太郎先生



出られない” “経済的に不安”と答えた人も三割近くあります。

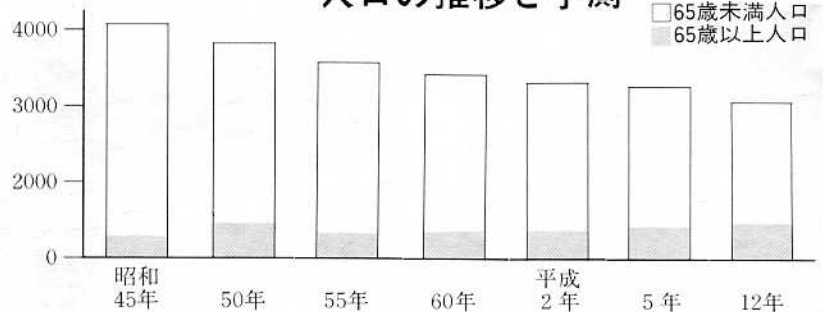
現在、在宅介護を支援する各種サービスには、紹介した訪問看護やホームヘルプサービス以外にせせらぎ荘でのデイ・サービスや約百人の対象者に対し、年間一〜二回のべ約百八十回にわたる保健婦による訪問指導などがあります。これらの各種サービスは、現時点ではバラバラに行われていることが実情です。

例えば、介護者が専門知識を得ようとするなら保健婦に、介護用品を借りるなら社協に、医療については病院にという具合に受けて側は、一人であるのに各部門が別々に動いているのです。保健福祉計画では、在宅介護支援のさらなる充実を目指し、保健、福祉、医療のシステム化を図り、一体化の実現を推進していきます。

今年度、母子センターの位置に建設する「保健センター」は、病院、せせらぎ荘を加え、あの一帯を「保健福祉ゾーン」として、保健、福祉、医療の拠点施設となります。

下のグラフをご覧下さい。人口推計によれば、平成十二年には、私たちの村の総人口の三十・四割が六十五歳以上となることが予測されています。また、これに伴って、独り暮らしのお年寄り、お年寄りのみの夫婦世帯も増えてきます。つまり、三人に一人が高齢

人口の推移と予測



年	昭和45年	50年	55年	60年	平成2年	5年	12年
総人口	4,080	3,837	3,578	3,422	3,323	3,277	3,085
65歳以上人口 (構成比)	557 (13.6%)	596 (15.5%)	636 (17.8%)	694 (20.3%)	774 (23.3%)	831 (25.4%)	940 (30.4%)

(資料：国勢調査、人口動態統計人口推計)

者”という時代は、もうすぐそこまでやってくるのです。今まで以上に各種サービスの充実を図るためには、ヘルパーさんなどの増員も考えて行かなければなりません。そのためのボランティアの育成も急がれる課題です。

“人生八十年時代”といわれる今日、健やかな老年期を迎えることは全ての人の願いです。しかし、不幸にして介護を要する立場になる可能性は誰にもあります。今こそ、来るべき“高齢化社会”に向け、一人一人が真剣に考える時期ではないのでしょうか。

# 再会

## 東白川中・香海中交流会



最初は照れがあったものの……

この日は、雨から小雨交じり。香良洲町では、朝から雨降りだったようですが、一行が村に到着したころには、お天気を運んできたかのような快晴となりま

最初は、海の中に住んでいるから山のことは、あまり知りません。だから東白川村の方に近づいてきたら、両方に山があったので、すごく興味があつてずっと外を見ていました。

（中略）東白川村は、とても空気がきれいでいいところだと思えました。交流会では全部見てまわれなかったことがとても残念でした。（香海中八太亮輔さんの感想文より）。

五月十二日、香海中の一行が宿泊先であるこもればの館に到着したのが、正午。四時間余りをかけたバスの旅です。

### “海っ子”たちは山が大好き

平成元年に始まった三重県香良洲町との交流事業。このほど、同町香海中二年生六十一名が、社会見学の一環として村を訪れ、東白川中二年生五十名とスポーツ交流会を行いました。この両校の生徒達は、小学五年生の時香良洲町で交流会しており、実に三年振りの再会となりました。そこで両校の再会にスポットをあててみました。



五介の滝で楽しい食事

香良洲町は伊勢湾に面して、雲出川下大ハシヤギ。

バスで来た香良洲町は、食事が終わるといちもくさんに、山へ登る子、水遊びする子など、大ハシヤギ。

この森は、平成三年十月に訪れた香海中の生徒たちと、東白川中の生徒たちが、共同で植樹をした友好の森です。このふれあいの森と今年三月に整備が終了した「五介の滝公園」一帯で昼食。五介の滝に隣接して設けられた階段を飛ぶように駆け降りると、東屋、川ぞい、橋の上などのおおお気に入りの場所でお弁当を広げました。

「海・山ふれあいの森」へ。

物をもれびの館へ置いたあと、生徒たちは一路五加久須見地内の「海・山ふれあいの森」へ。



今回交流を行った生徒たちは、平成3年6月に香良洲町で「桶干し網漁」の体験交流を行いました。

“山っ子”たち、初めての体験に大ハシヤギ。当時5年生だった生徒たち。今ではお互い中学2年となって顔にはニキビも少々……。

（写真：広報平成3年7月号より）

流の三角州にあり、山が全くない町。山々に囲まれ、清流の流れる東白川への反応はかなり大きなものがあったようです。この水飲めるんですか？と質問をする子、サワガニを見つけて大喜びの子など、見ていると服が汚れようが靴がドロドロになろうが一切構いなしの様子でした。

香海中の生徒たちは、この日を記念してふれあいの森に代表者五人がヒノキやカシなどを植樹し、ふれあいの森をあとにしました。

### 文通つるつる 生徒が十組

今回の交流会のために東白川中学校の生徒が考えた企画は、「スポーツ交流」。内容はグラウンドゴルフでした。両校の生徒百十人を十五グループに

分け混成チームを結成。

このチームづくりも東白川中の生徒が行いました。が、編成にあたっては、チーム内のペアとなる相手、両校で文通をしている子同士になるように配慮したものだとか。

この両クラスには、小学校五年生の時に香良洲町での交流会で知り合ってから、今なお文通を続けている子が、十組もあるそうです。そのほとんどが、初めて村を訪れたということもあって、まさに「三年振り」の再会。このいきな計らいは、大好評だったようです。

最初のうちは、久しぶりの再会というところもあって妙な照れがあるのか、恥ずかしそうに話していた子どもたちでしたが、住んでいるところは、違ってもそこは、同じ中学二年生、ゲームが進行するにつれ、すっかり意気投合。また、「グラウンドゴルフなんて初めて」と話していた香海中の生徒たちも打ち解けると同様、ルールを覚えるにもさほど時間はかからなかったようでした。

今回の両校での交流会は、このグラウンドゴルフだけだったため、わずか二時間程度。楽しい時に限って時間のたつのは早いものです。

開会式では、生徒たちの美術作品の交換会も行われ、再会を約束して、交流会は終了しました。



スポーツ交流会は大成功

### 友好関係を大切に

香海中の生徒たちは、こもれびの館で一泊し、もう一つの目的である高山市内見学のため、翌十三日朝、村をあとにしました。

平成元年に両町村が交流協定を結んで以来、小学校や中学校などで行ったり来たり交流は、幾度かありましたが、二度めの顔合わせとなったのは、今回が初めて。

両校ともそれぞれの町村に一校しかない中学校だけに、スポーツの大会などを除けば、なかなか他校の生徒と交流する機会に恵まれない状態。時間こそ短かったもののこうした交流の体験は、生徒たちにとって大きな意味があったのではないのでしょうか。



優秀チームには「つちのこクッキー」が送られました。

### ■ 香海中学校 ■

グラウンドゴルフのチームを決めて東白川中のチームも決まって、紙が配られたとき、私は驚いた。なぜかという、文通している子と一緒にチームだったから。すごく楽しみでその子に手紙を書いた。グラウンドには東白川中学校の子が待っていて、文通している子を探した。どこにいるのかわからなかったが、班で集まったときやっとわかった。ずっと前、写真で見たときと同じだった。(藤川真希さん)

年生の時に会って以来だったので、どんな風になっっているのかとても楽しみだった。会ったら昔のままで私よりも身長が低かったのでビックリ！でもすごく仲良くできた。もう一人のチームの東白川村の子ともたくさん話すことができた。(高山かおりさん)

## わたしたちの交流会へ感想文より

小学校五年生の時の交流会からずっと文通を続けていた子に会い、すごくドキドキしていました。「何話そうかな」といろいろ考え、でも会うと話ができませんでした。そのうちにだんだんなじみ、もっともっと話せたら、と思いました。(五十川美奈さん)

昨日、香海中とグラウンドゴルフをやりました。僕は五グループでペアは倉田君。とても面白い子で、すぐに仲良くなりました。スコアはあと一ホール残して四十五でした。とても楽しかったです。また、こういう交流会をやりたいと思った。(小池康信さん)

### ■ 東白川中学校 ■

私は、五年生の時に一度会った子に昨日久しぶりに会いました。かおりちゃんとは、五年生のときからずっと文通をしていて、いつかは会いたいなあと思っていました。本当に会えてうれしかったです。(今井雅代さん)

昨日の交流会で久しぶりに友達に会いました。同じグループの中にすごく楽しい子がいてグラウンドゴルフも楽しくできました。もう少し長い間一緒に遊べたらもっと多くの子と話ができたと思います。(安江留美さん)

# おし せ ら

## こんにちは 社協です

「六月は会費納入の月！」。社会福祉協議会は、県や村からの補助金や委託金のほか皆様から納めていただく会費を財源に各種事業を行っています。

会費は、一般会員が一口千円、法人や企業など特別会員が一口五千円です。

今後、より充実した活動を展開するため、会費増口にご協力をお願いします。

## 「ブルーリバー作戦」 にご協力を

古くから清らかな流れを誇ってきた岐阜県の河川も、最近ではかなり汚れが目立つようになってきました。こうした汚染の大きな原因のひとつとされているのが、皆さんの家庭から出る生活排水です。しかし、このような生活排水も家庭でのちよつとした工夫で、その汚れを改善することができます。

このような生活排水対策を県では「ブルーリバー作戦」と名付け積極的に進め、皆さんに協力をお願いしています。

調理くずなどを流さない方法としては①台所の流しに使用されているストレーナ（水切りかご）や三角コーナー（目の細かいものに変えたり水切り袋を使う。②食器を洗う前にキッチンペーパーなどで汚れを拭き取ってから洗う。などの心掛けが大切です。

調理くずをそのまま流すことは、河川の水質汚濁の原因

になります。

また、廃食用油を流さないようにするためには、調理方法を工夫して、油をできる限り使いきるようにしましょう。やむを得ず残った場合は、廃油回収に出すか、新聞紙に染み込ませ、ゴミとして出すとよいでしょう。

一人一人が生活排水の浄化に心掛けましょう。

## 夏の行楽シーズン 食中毒にはご用心

梅雨が明ければ待望の夏。行楽には絶好のシーズンとなり、家族そろって山や海に出かける機会も多くなることと

思います。こうした楽しい夏の行楽で気を付けなければならないのが食中毒です。

食中毒は、サルモネラ、腸炎ビブリオなどの細菌が食品の中で増えるために起きますが、気温の上昇がそのパロメーターとなります。

これからの時期、弁当やおにぎりなど、食品の取り扱い

には十分に注意しましょう。

▼細菌性食中毒を防ぐには▲  
①細菌を付けない：調理前には石けんで手をよく洗う。調理器具もよく洗う。（熱湯による消毒も効果的）

②殺菌を十分に：食品の中心部まで十分に熱が通るように加熱する。

③細菌を増やさない：調理をしたら早めに食べ、残ったらず冷蔵庫に入れる。

県では、気温の上昇などにより、食中毒の発生が予想される場合は、県内全域に食中毒警報を発令し、注意を呼びかけます。

また、食中毒などによる事故を未然に防ぐため、飲食店や弁当販売店などの監視指導を実施しています。

## 消防職員を 募集します

可茂消防事務組合では、来春採用予定の消防職員を募集しています。

①採用人員 十名程度  
②受験資格 ・第一種（大学

卒業程度・昭和四十五年四月二日～昭和四十八年四月一日までに生まれた男子）・第二種（短大、高校卒業程度・昭和四十五年四月二日～昭和五十二年四月一日までに生まれた男子）・身長一六〇センチ以上で通勤可能な者。

③受付期間 平成六年七月四日（月）～七月二十一日（木）

現在、同組合には村出身の三人の若者が、私たちの暮らしを守るために日夜頑張っています。治安を守る大切な仕事にぜひご応募下さい。

※詳細については、消防本部総務課（☎〇五七四（二六）二一七八）または、役場総務課（有線五一三二）まで。





## 保健婦だより

年に一度は、定期健診を、  
 《健診の効果》  
 ・ 早期発見、早期治療につながる。  
 ・ 健康に対する関心や認識が深まる。  
 ・ 健康状態を継続的にチェックできる。  
 ・ 若いときからの受診は、健やかな老後を送る前提になる。  
 《こんな言い訳していませんか》  
 ・ 忙しい  
 ・ めんどくさい  
 ・ 病気が見つかって知らされるのが怖い。  
 ・ 自分だけは大丈夫。  
 ・ この次でいい。  
 ☆今年こそは、健診を受けて自信を持ちましょう。

## 昨年の災害を教訓に「土砂災害防止月間」

相次いだ大地震に加え、記録的な豪雨となった梅雨と八月、さらに追い打ちをかけるように上陸した台風：平成五年は「災害厄年」ともいえる年でした。全国各地で被害が発生、これに伴う土砂災害による死者・行方不明者は過去十年間の平均を四倍も上回る数字となっています。  
 六月は「土砂災害防止月間」です。去年の災害を教訓に土砂災害に対する備えなどをこの機会に再確認しましょう。

《土砂災害の特徴と備え》  
 土砂災害は、集中豪雨や長雨が引き金となって起こるケースがほとんどです。一時間に二十センチ以上の雨が降ったら、また降り始めからの雨量が百を越えたら黄色信号だといわれています。テレビなどの気象情報に注意しましょう。  
 また、突発的に起こるのも土砂災害の特徴です。ふだんからの心構えとしていざというときのために避難する場所やそこまでの経路もあらかじめ家族や地域で決めたり、懐中電灯などをまとめた非常袋も常備するとよいでしょう。

《土砂災害の前兆》  
 【土石流】・川の水が急に濁ったり、流れに流木が混ざったりしてきた。・ゴロゴロと川底で石の流れる音がする。  
 ・川の水かさか急に減った。  
 【地すべり】・地面にひび割れができた。・陥没や隆起が認められてきた。・井戸の水が濁った。・斜面から水がふき出した。  
 【がけ崩れ】・パラパラと小石が落ちてきた。・斜面の途中からのわき水が濁り出した。・斜面に亀裂が生じた。  
 ・ふだん聞き慣れない音が、斜面から聞こえる。

# けいじばん

【戸籍】 (敬称略)

### ●お誕生おめでとうございます

(西洞) 河田 孝 智佳 (長女)  
 浩世 達郎 (長男)

### ●いつまでもおしあわせに

{ 高橋 文基 (岐南町)  
 曾我 聡子 (陰地)

### ●おくやみ申し上げます

栗本ふくよ 69歳 (柏本)

## 【善意】

(敬称略)

【はなのき会館備品購入指定寄付】

現金80万円—岐阜部品株式会社

【社会福祉施設整備指定】

現金7万円—古田 季彦 (上親田)

【庁舎建設指定寄付】

現金10万円—安江 龍夫 (曲坂)

【村へ】

ぞうきん5枚(庁舎)、10枚(村民センター) — 神土婦人会

タオル19枚 — 神土婦人会

刀(備前長船)1振—村雲 道子 (中通)

【東白川病院へ】

待合室用本40冊—有瑠美会

【東白川小学校へ】

竹ぼうき10本—老人クラブ寿会

タオル50枚—神土婦人会

【神土保育園へ】

タオル30枚—神土婦人会

造花カーネーション50個—東白川村母子寡婦福祉会

【越原保育園へ】

竹ぼうき10本—老人クラブ寿会

さつまいも苗100本—安江忠昭 (陰地)

造花カーネーション45個—東白川村母子寡婦福祉会

【五加保育園へ】

子供用自転車1台—今井利文 (下野)

竹ぼうき10本—老人クラブ寿会

ぞうきん40枚—匿名

造花カーネーション30個—東白川村母子寡婦福祉会

① データ ① ▶土砂災害別◀  
 にみる全国の危険箇所数

土石流の危険箇所	79,318
地すべりの危険箇所	11,042
がけ崩れの危険箇所	81,850

約17万箇所

## 珍客

### 春の陽気に誘われて ギフチョウ飛来

加舎尾の田口穰さん宅にギフチョウが飛来... このギフチョウ、ポカポカと暖かくなつた陽気に誘われ、開けてあつた窓から侵入したもののようです。田口さんが見つけた時には、廊下のカーテンにじつととまったまま動かかなかつたとのこと。

「アゲハチョウかと思って見たら、以前新聞の広告に出ていたギフチョウの写真にそっくりだったので、その広告を捜して比べてみたらやっぱりそっくりそのものでした」と田口さん。明治十六年に、名和靖氏により益田郡金山町祖師野で初めて採集され、その存在が確認されたギフチョウ。「岐阜県の動物」（岐阜高等学校校生物研究会編）によれば、村にもその存在は確認されていますが、各地で進められている土地開発によりその数も減少の一途だとか。まさに「珍客」の飛来でした。



田口 穰さん撮影

## 方針

### 清流白川とハナノキを軸に 観光協会長期計画策定



観光協会総会の様子

「この計画は、目的でもある経済の発展に直接結びつくものではありませんが、その種を今からみんまで蒔こうとするものです。」。これは、このほど観光協会が策定した「長期計画書」の冒頭にある。

今井啓市観光協会長のことはの一部です。

いわゆる「観光名所」と呼ばれるような資源が皆無に等しい私たちの村にとつては、「観光」という産業で経済効果を求めるためには、こちらから何かを仕掛けていかなければなりません。観光協会が一年間を費やし、策定した長期計画の柱は二本。その一つは清流白川の活用です。後世に残すべき美しい白川の流れを保護していくことはもちろん、川を利用した各種イベントも今後計画されます。

あと一つの柱は、ハナノキの里づくりです。将来は、村の木であるハナノキを村中に植栽し、「ハナノキの里」として売り出そうというものです。観光協会では、今後この二つの柱を中心に実行委員会を設けるなど、方向付けがなされます。

## 総会

### 満三歳の中京村人会 役員を改選

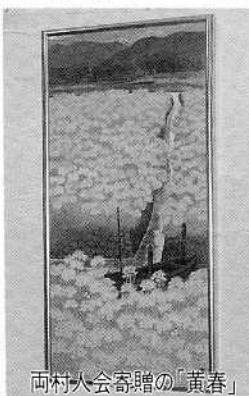
「中京圏のふるさと応援団」東白川中京村人会が、愛知県を中心に中京圏に在住する村出身者やその家族の皆さんなど二〇七名を集めスタートしたのが三年前。現在会員数は約二二〇名。まさに頼もしい「大所帯」となりました。

この中京村人会の総会が五月二十九日、名古屋市のキャッスルプラザにおいて盛大に行われ、七十名を超える会員の皆さんが参加しました。今年の総会では、席上役員改選が行われ、村人会発足の準備段階からご尽力下さり、初代会長として会運営に活躍された宮代出身の今井利也さん（犬山市）に代わり、前副会長上親田出身の木村方根さん（名古屋市中京区）が新会長に就任。中京村人会の新しい時代の幕開けとなりました。

94 東白川中京村人会総



桂川村長と木村新会長が  
がっちり握手



両村人会寄贈の「黄春」

また、同会と東京東白川クラブの皆さんの協力でのほど新庁舎へ村出身の日本画家田口愛子さんの作品二点を寄贈。田口愛子さんご自身からも新庁舎へ作品一点をご寄付いただき、ロビーなどに飾られました。

# 話題集まれ!



窯出しされた炭をおそるおそる運びました

## 合宿

服も体もまっ黒!  
五年生炭焼き体験

「五年生の思い出に残る合宿にしよう!」  
去る五月三十、三十一日の二日間、東白川小学校五年生の児童四十人が、こもれびの館で合宿を行いました。

この合宿は、毎年五学年が行っているのですが、今年の合宿では、例年どおりのきもだめしやキャンプファイヤーなどに加え、ちよっと変わった試みが行われました。山村ならではの「炭焼き体験」です。

第一日目の午後から行われた炭焼き体験。かつて村の貴重な財産収入となったこの炭焼きですが、ほとんどの子が、どうやって炭が作られるか知らない状態。今年九十二歳になられるこの道の大ベテラン神付の安江正史さんの手ほどきで炭を窯から出す作業や切る作業、また新しい木を詰める

作業を三班に分かれ体験。服も手も顔もまっ黒になりながら一生懸命に挑戦していました。実際に自分たちで切った炭を使つてのパーベキューの味はきつと格別だったことでしょう。

## 別送

開設26年、千七百五十人の命を  
育くんだ母子センターお別れ式



懐かしい顔がそろって玄関前で記念撮影

昭和四十三年、村の助産施設として建設された「母子健康センター」。母子センターの名で親しまれたこの施設から二十六年間に、男八百七十九人、女八百七十一人、合計千七百五十人の命を世に送り出しました。

この母子センター、今年度助産部を含めた保健、福祉、医療一体化の拠点施設となる保健センターがこの地に建設されるため取り壊されることとなり、この解体に先立って、去る六月五日、これまで業務に携わられた医師、保健婦、看護婦や村の担当者など三十一名を招き「お別れ会」が開かれました。

お別れ会では、懐かしいセンター内を見学。それぞれの皆さんが携わった当時の思い出話に花が咲いたようです。正面玄関での記念撮影終了後、こもれびの館で懇親会も開かれました。

七月上旬ころ解体される母子センター。保健センターができるまでの間、六月二十日から病院院棟二階を仮施設として業務を行います。

## 大会

走った! 投げた! 打った!  
郡体育大会百四十二人が汗

さわやかなスポーツ日和となった去る六月五日、七宗町、白川町、東白川村の八会場において、「第三十八回加茂郡体育大会」が開催され村から十種目に百四十二人の選手団が参加、熱戦を繰り広げました。

村内では、総合運動場が軟式野球会場に、中学校体育館が、バスケットボール会場となりましたが、中でも軟式野球では、日ごろ熱戦が繰り広げられている村軟式野球連盟のリーグ戦では、なかなかお目に掛かることのできないような棚越えの特ダホームランが何本か飛び出すなど応援に駆け付けた皆さんも大喜び。東白川村チームは、残念ながら健闘及ばず決勝戦で八百津チームに四対一で惜敗しました。

なお大会の結果は次のとおりです。(敬称略)

【準優勝】《団体》軟式野球一般男子・バレーボール家

庭婦人・ソフトテニス一般

女子・バスケットボール一般女子《個人》

剣道：安江つゆ子(大明神)

【第三位】《団体》バスケットボール一般男子《個人》

剣道：安江つゆ子(大明神)

【第三位】《団体》バスケットボール一般男子《個人》

剣道：安江つゆ子(大明神)

【第三位】《団体》バスケットボール一般男子《個人》

剣道：安江つゆ子(大明神)

【第三位】《団体》バスケットボール一般男子《個人》

剣道：安江つゆ子(大明神)

【第三位】《団体》バスケットボール一般男子《個人》

剣道：安江つゆ子(大明神)



健闘が光った女子バスケットチーム



## 今月の笑顔さん

# みんなが公園…のよつなまへーじ

二か月が過ぎ、気持ちに余裕ができました

社会福祉協議会事務職員 後藤智香

四月から社会福祉協議会でお世話になっている後藤智香です。

私は、お隣の黒川から久須見へ出る峠道を、車で毎日通っています。峠道での運転に慣れないうちは、ただただのろのろ走るだけで、カーブも肩が入ってしまい、運転している自分が酔ってしまうかと思う程のものでした。

けれど、あつという間に二か月が過ぎ、運転にも多少余裕が出てくるようになると、道沿いにかわるがわる咲く草花に目が向くようになり、季節の移り変わりを楽しみにしています。まだまだ半人前にも及ばない私ですが、多くの方々に助けられながら頑張っていますので、どうぞよろしくお願いします。

また、『社協だより』第19号は私の最初の作品です。読みづらい点もあると思いますが、皆さんと間接的に触れ合える良い機会だと思いますので、どうぞ目を通して下さい。



### 職場から

大口のアゼチ木工は、積層強化木と包丁などの柄や取っ手に使う材の生

産を行っています。ここに中国から研修生二人が来たのは昨年七月五加の山口工業や付知町の業者とともに迎えたものです。

アゼチ木工のお二人、王平さん(31)と王亮喜さん(30)はともにお国に奥さんとお子さんを残しての来日。当初日本語は全く話せなかったお二人ですが、今は、片言で話すことができます。職場のみなさんともすっかり打ち解け、このごろはテレビの話題もできるとか。

二人は、来年一月母国へ帰りませんが、工場主今井和男さんは、今後も中国からの研修生を受入れたい」と話してくれました。



牧野綾香ちゃん  
(勇三さん・ひとみさん  
長女・日向)



今井美輝ちゃん  
(輝久さん・美和さん  
長女・神付)



六月、葵月、短夜、田植え。日本全国の水田面積は二百八十二万五千ha。もちろん米を生産することの役割は大きいですが、それ以外の効果、中でも洪水防止効果を金に換算すると年に一兆二千億円にもなるという。ごく普通の夕立ち雨でも、もし水田が全然無かったら、一挙に流れ出してたちまち洪水になることでしょう。



後藤 智香さん

# 2 ツニョット 新婚さん



今井明義さん・由美子さん（陰地）

今月は、六月五日に結婚されたばかり、ホヤホヤの新婚さん陰地の今井明義さん、由美子さんご夫妻です。交際を初めて二年目でゴールインというお二人、出会う前はご主人がUターンする前、同じ職場に勤めていたことから。

「始めは他の友達と一緒にという感じでしたが、そのうちお互い意識し始めて、一年前から結婚を考えました」というご主人に「優しいところに着かれました」とは奥さん由美子さん。

笠松町のご出身の由美子さんですが、初めて村を訪れたとき特別な驚きはなかったそうです。というのも奥さんのお母さんの実家が鹿児島県で東白川村のような山村だからとか。「お母さんの家は鹿児島の中の山の中、小さいときそっちに住んでいましたから、将来はそういう田舎で暮らしたい」と思っていました。

「ほのぼのとして会話のある家庭が理想」というお二人。子どもは三人がご希望だそうです。

## 今月のことば

食卓はあいさつの一大拠点と言え大げさでしょうか。「頂きます」「ごちそうさま」「どうぞ」「ありがとう」かつてはもろもろのしつけと共にそれがありません。（朝日新聞より）



## 集落めぐり

栃山

栃の木が多かったことがその地名の由来といわれる栃山地区。かつてこの栃の木の実は、飢饉の際、非常食糧として大切にされ、往時の人々は切ることをも慎んでいたようです。また、天保十五年（一八四四）までは、折半されて黒潮と日向とに組み込まれていたとのこと（資料…「ふるさとのことば」）。

この栃山地区の栃山橋を渡り村道栃山線を二〇〇ほど遡ったあたりの道路から七〇八山に登ったところに「善光寺さま」があり、ここに高さ一二三、幅五一の「南無阿弥陀仏」の名号塔が建てられています。役場前にある四つ割碑が建てられた天保六年を下ること十四年、嘉永二年（一八四九）に建立されたものです。廃仏毀釈の際、一時倒されたというこの名号塔現在、毎年四月二十九日に仏式で供養が行われています。

## 図書室発・あなたへ

近ごろは多くの人が病院で人生の終焉を迎える。昔はほとんどの人が家庭で死んだ。当然子供たちも身近な人の死を目の当たりに見ている。むしろ、親が子供に人生の最終を見せていたのだ。近ごろの、少年達の残酷な殺人事件は、子供たちが「死」というものの本質を知らないからではないかと著者は考える。



より充実した人生を送るために  
いま「死」をどう考えるか  
斎藤 茂太著



▶安江志貴ちゃん  
（健さん・昌恵さん  
長女・日向）

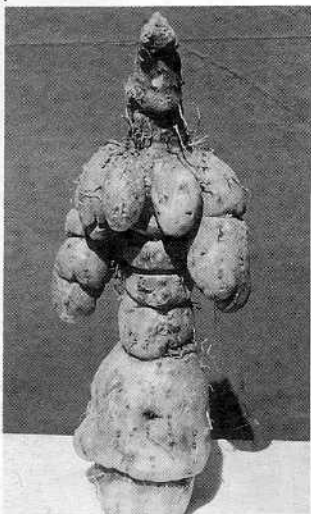
▶安江園美ちゃん  
（達哉さん・弘子さん  
二女・大明神）

わが家のスター

## ホットアングル



昨年、陰地遺跡から縄文式土器が発見され、村は一躍縄文ブームとなりまた新たな出土品か？と思わせる珍品の写真が、広報に届きました。



実はこれヤマモです。平の神正さんが掘り出されました。

狂俳

〔追善供養狂俳〕

ちらつく雪

とろくさい

それもそうじゃのう蓄めるばかりが能じゃやない

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

投稿は奇数月の二十日までに、俳句は西河田重喜宛・狂俳は隆地安江永吉宛までお寄せ下さい。なお、今回の狂俳の題は「空梅雨」「泣きながら」「ほんやり」です。

辻の易者も灯り消す

（探り）哀愁そ、るチャルメラの音

文明の世に追いつけん

（探り）鉄で田を掘り薪でめし炊く

下親田 故田口 盛松大雅

めざす松坂意気上る

（探り）金に埋もれて餓鬼に似て来た

上親田 故古田 虎雄大雅

めざす松坂意気上る

（探り）主君の仇へ踏みしめる足

神付 故早瀬 勇造大雅

めざす松坂意気上る

（探り）鼻へ届くお茶と草餅

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

伸す腰

ちらつく雪

俳句

衣更一生妻の地味好み

日向 安江一滴水

（戦艦大和と眠る松岡平八君五十年祭に）

ほ、えめる友の遺影よ若葉風

杉山 安江 市助

春愁の瞳は何処へそ、ぐやら

加舎尾 新田 義男

荒草にとさか紅なる夫婦雉

平 安江 武子

村おこす夢のつちのこ鯉のぼり

平 安江 統子

うぐいすの川をへだて、鳴き交す

曲坂 今井 清美

皐晴れ飛行機雲の一直線

中通 村雲みか子

用水池金網へだて、花筏

中谷 田口 耕作

巻き弧を拡ぐ祭や赤鳥居

日向 田口 秋映

桜散る鐘に踊れる蛇女

日向 田口 秋映

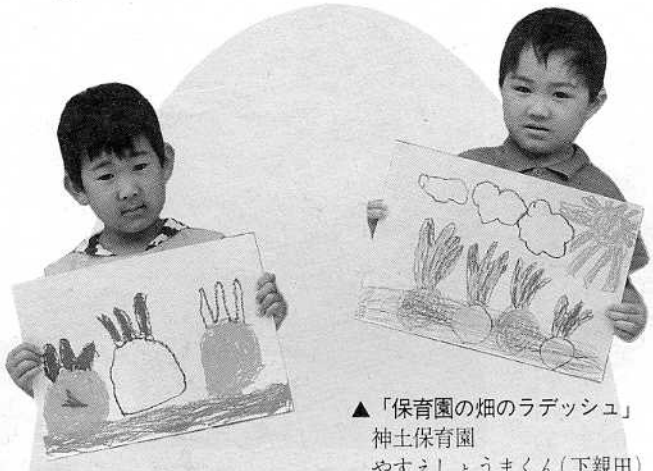
送りき湯呑は孫の春便り

平 安江すみよ

行く春やあるがま、なる川瀬音

西洞 河田 重喜

発表の作品



▲「保育園の畑のラデッシュ」  
神土保育園  
やすえしょうまくん(下親田)

▲「保育園の畑のラデッシュ」  
神土保育園  
やすえけんすけくん(下親田)



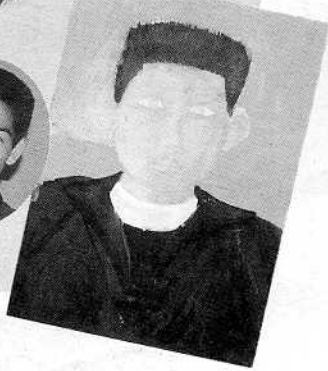
▲東白川小学校6年生  
安江侑子さん(上親田)



▲「クラッカー」  
東白川小学校2年生  
安江亮太さん(日向)



「自画像」  
東白川中学校3年生  
今井通裕さん(下野)



花壇を彩るチューリップの花が終わるころになると、子房部分を摘み取る。花壇で摘み取りをしていると「何んで花を取るの」と子どもが近づいてきた。「この所を摘むと球根が大きくなるの」と答えると、私もやっていいと摘みはじめた。来年もきっと美しい花を咲かせてくれることでしょう。▼炭出しを体験するチャンスがあった。村では、ふるさとの伝統を育む事業の一環として炭焼き窯を再現している。お年寄りの指導を受けて、子どもたちが焼きあがった炭を一本一本運び出した。ところが、子どもが運び出す炭は、途中から折れてしまう。心配そうな子どもの顔をみたお年寄りは、真中を持つと折れるから端を持つといいと言われた。運び出した炭を切る子どもたちは、鼻の穴を暗黒にしながらのこぎり動かししていた。▼子どもが何かを学び取ろうとするときの集中力に驚くと共にひたむきな姿に自分らしさを表現していることを知った。



こぼれ話  
花壇を彩る  
チューリップ  
の花が終わる  
ころになると